

「公的病院幹部を対象とした病院経営持続性を高める 医療経営人材養成プログラム」を開催

地域医療を守るために、公的病院等が社会から期待される診療機能の役割を果たし、持続可能な医療を提供するためには、病院の経営力を高めることが必要となります。

このたび文部科学省認定職業実践力育成（BP）プログラム^{※1}となる公的病院の幹部を主な対象にした医療経営に関する体系的な学びと訓練の機会を提供する講座「公的病院幹部を対象とした病院経営持続性を高める医療経営人材養成プログラム」を開講しました。また、本プログラムは、厚生労働省の教育訓練給付制度^{※2}の「特定一般教育訓練」に指定されました。

本プログラムは当初、初回（10/2）と最終回（2/26）は県立広島大学大講義室を使った対面講義を予定しておりましたが、新型コロナウイルス禍の波のため対面講義ができませんでした。そのため、10月2日から2月26日の間、毎週土曜日10:20～18:10（4講義/日）、全10日（40講義）が、座学と演習・グループ討議によるオンライン講義となりました。

全講義において終了前に「学びのレポート」を400字程度で作成して提出することを求め、プログラム履修状況の確認といたしておりますが、これは受講者が多忙な病院幹部であることに配慮して、授業が聞きっぱなしとならず、当該講義から学んだ気づきや感想を自身のためのメモとして残すこととなり、後で講義内容を振り返って理解が深められるように工夫いたしております。また、同レポートは当該講義をされた講師の方にも届けて、受講者の講義の受けとめと理解の様子をお知らせしておりますが、病院幹部の方の関心のありようが分かり、また講義を改良する参考になるとたいへん好評です。

今回のプログラムでは、広島県、静岡県や島根県から20施設が参加し、公的病院の院長、副院長、事務長・事務部長、課長そして民間病院の理事長等幹部の24名が受講されました。本プログラムは、公的病院幹部を対象と謳いますが、新型コロナウイルス感染者を受け入れている民間病院も公的役割を十分に担っていることを了解して本学近隣の医療法人に宛ててご案内し、5施設からご参加いただきました。

受講された皆さまは、新型コロナウイルス災禍の中で厳しい病院業務に従事されているにもかかわらず、半数以上が修了条件となる「全40コマのうち9割以上」の受講を満たされました。

※1. 職業実践力育成（BP）プログラム/ Brush up Program for professional：①社会人の学び直す選択肢の可視化、②大学等におけるプログラムの魅力向上、③企業等の理解増進を図り、社会人の学び直しを推進するために文部科学大臣が認定する実践的・専門的なプログラム

※2. 教育訓練給付制度：一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者（在職者）、または一般被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講して終了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合額（上限あり）をハローワークから支給する制度

本プログラムの想定する受講者

主に公的病院等の経営幹部

（※医療経営を真摯に学ぼうとする医療法人等の民間病院幹部の方を拒むものではありません）

※ 診療側は、院長、副院長、看護部長およびそれらに準じる方や候補となる方

※ 事務側は、事務長・事務部長、課長およびそれらに準じる方や候補となる方

※ 医療機関（法人本部や支部等の所属を含む）や医療機関の経営に関係する公的機関での勤務経験を10年以上有ることが望ましい

修了要件

全プログラムの9割となる60時間以上受講した者を対象に、各講義で課すレポートと最終講義後に提出する総合レポートの内容が合格とした場合、修了と判定し、履修証明書を交付する。